

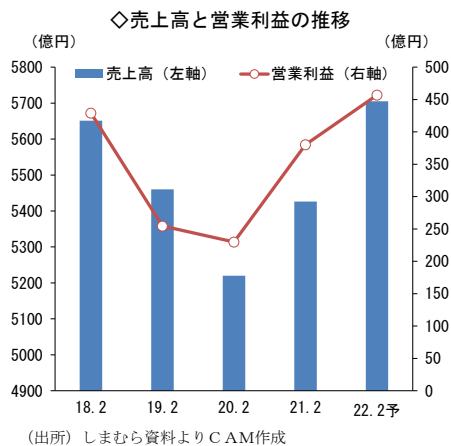
# 企業ニュース しまむら

(東証1部: 8227) <https://www.shimamura.gr.jp/>

作成者: 高見澤晶子

## ファッションセンターしまむらを全国展開

「ファッションセンターしまむら」を中心に衣料品専門店を全国展開している。21.2期末のグループ店舗数は2,199店、うち、しまむら業態は1,430店で売上高構成比は76%。21.2期は巣ごもり需要拡大の寄与に加え、PB（自社開発ブランド）、JB（サプライヤーとの共同開発ブランド）の展開強化、売れ筋商品の短期追加生産を活用した在庫の適正化と値引き販売抑制といった取り組みが奏功し、大幅な利益改善となった。22.2期は巣ごもり需要が一巡したが、各種施策の効果で業績改善が続いている。2021～2023年度の中期経営計画では、国内売上高5,950億円、国内営業利益493億円を最終年度の目標に据え、過去最高益の更新を目指す。



## 巣ごもり需要一巡でも強い売上基調を維持

22.2期・第3四半期累計（2月21日-11月20日）の連結業績は、売上高が4,368億円、前年同期比8%増、営業利益が388億円、同24%増。売上高は過去最高を更新した。PBやJBのほか、インフルエンサーによる企画商品やキャラクター商品が好調に推移するなど、商品力の強化が寄与した。デジタル広告の活用や地域別の販促対応などの効果も見られた。利益面では、粗利益率が34%と、好調だった前年同期並みを維持。また、販管費は、人件費や広告宣伝費を中心にコントロールし、計画線での推移となった。

22.2期の通期会社計画は、売上高が5,705億円、前期比5%増、営業利益が457億円、同20%増。第3四半期までの進捗率は売上高77%、営業利益85%と好調だが、新型コロナウイルス感染再拡大、調達コストの増加などを懸念し、通期計画を据え置いた。来期にかけて調達コストの影響が拡大するとみられる中、当社は閑散期を活用した定番商品の生産や、寝具など大物商品の圧縮納品などの物流コスト削減で対応するほか、サプライチェーンの見直しも行うとしている。また、来期の秋冬商品からは一部商品の価格転嫁を検討、上昇したコストを吸収できるよう対応を進める。

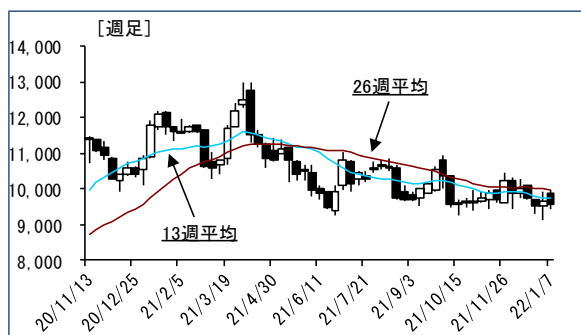
### [株価動向・投資判断]

商品力強化などの自助努力により、収益性向上が継続している点を評価したい。

<8227 しまむら 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.2	521,982 (▲4)	22,985 (▲10)	23,855 (▲9)	13,125 (▲18)	357.2	200.00
21.2	542,608 (▲4)	38,026 (▲65)	39,404 (▲65)	26,163 (▲99)	711.9	220.00
22.2 予	570,520 (▲5)	45,684 (▲20)	46,647 (▲18)	31,239 (▲19)	850.0	220.00



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価 (2022/1/7)	9,580 円
昨年来高値 (高値日)	12,980 円 (21/4/5)
同 安値 (安値日)	9,130 円 (21/12/27)
予想 P E R (22.2 予)	11.3 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	10,957.2 円
P B R	0.87 倍
予想配当利回り	2.30 %
(1株当たり配当金年220.00円)	
R O E (21.2)	7.0 %
発行済み株式数	3,691 万株